

# 気持ちを表す言葉を増やす取組

～語彙シートの活用を通して～

発表者① 松本 真美 発表者② 大矢 栄子

## 1 生徒の実態

行事後の振り返りシート(感想文)等を書く際に、伝えたいことを順序だてて書くことができるようになり、文章量も増えてきた。しかし、語彙の活用に不十分さが見られ「たのしかった」「うれしかった」などの限られた言葉で表現することが多い。

## 2 目的(指導・工夫の意図)

目的：気持ちを表す言葉を増やす

指導：「語彙シート」の活用

言葉の宝箱(光村図書出版)等を参考に本校で作成。

工夫：①単語帳形式(図1)

⇒机の横に掛けていつでも活用できるようにした。

②イラスト付き(図2)

⇒文字を読むことが苦手な生徒も、自分の気持ちを指し示すことで活用できるようにした。



図1 単語帳形式



図2 語彙シート

## 3 取組の実際・生徒の様子



- ・感想文を書く場面において、自発的に語彙シートを活用する姿が見られるようになった。また、活用している友達の様子を見て、手に取る姿が見られるようになってきた。
- ・これまで使用頻度が少なかった言葉で、気持ちを表現した感想文・発表原稿が見られるようになった。
- ・イラストを指差して気持ちを伝えていた。

## 4 考察(成果と課題・今後の改善策など)

成果：「楽しかった」から「わくわくした」「がんばった」へ

課題：①言葉の意味や使う場面を理解しないまま書き、伝えたい気持ちと意味が異なることがあった。

②シートにある言葉の中から選択するため、言葉の活用が限定的なものになってしまう。

改善：①言葉の意味を実感する場面を設定

⇒毎月の部集会でロールプレイを実施することにした

②ロールプレイで取り扱った言葉を廊下に掲示し見返すことができるようにした(図3)。



図3 ロールプレイで使用した言葉の掲示

# 漢字の習得及び読書習慣につながる朝学習の取組

～こども新聞を活用して～

発表者① 東野 由奈 発表者② 小西 夏

## 1 生徒の実態

漢字については、石川県基礎学力調査（小4国語）より、本校Ⅰ・Ⅱグループの漢字の正答率は石川県小4児童の平均より上回っており、一定の習得が見られている。個別の状況を見ると、中学2年生程度の読み書きができる段階の生徒がいる一方、小学校1～2年生程度の段階の生徒がいるなど、習得状況は様々である。

文章を読む習慣や読解力については、日常的に小説を読むなど読むことが既に習慣化しており、内容を正確に読み取れる生徒もいれば、読むことに苦手意識があり、文章の意味を捉えたり、内容を把握したりすることが難しい生徒もいる。概ねどの生徒も朝学習には意欲的であり、新聞の読み取りも粘り強く取り組むことができる。

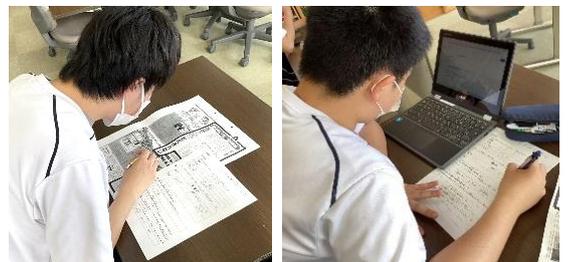
## 2 目的（指導・工夫の意図）

朝学習の時間（毎日8：45～8：55）に、「読売KODOMO新聞」の記事を読み、教師が作成したプリントに取り組んでいる。目的は①漢字を習得すること、②読書に親しむことである。いずれも日常的に継続して取り組むことが有効であると考えられるため、週に1回（毎週月曜日に）プリントを発行している。

あくまで目指すのは①漢字を習得すること、②読書に親しむことであるため、生徒の学習意欲を削がないよう、どのような実態の生徒でも取り組むことができる難易度になるよう配慮している。

## 3 取組の実際・生徒の様子

生徒によっては難易度が高く、なかなか提出できない生徒や、取り組むことをやめてしまった生徒が出てきた。そこで、従来の形式のものに加え、難易度を落とし、解答を選択式としたものと2パターン作成することにした。その結果、大半の生徒が選択式のプリントを選び、最後まで取り組む姿が見られた。⇒取組状況が改善した。



## 4 考察（成果と課題・今後の改善策など）

〔成果〕

- ・意図的に読む場面を設定したことで、読む習慣のなかった生徒も、読書に触れる機会が増えた。
- ・1年生の中には自力で解くことに時間がかかっていた生徒がいたが、選択式のプリントを作成したことで、自力で解ける問題が増えてきた。その結果、「自分で解けた」と教師に報告するなど、自信をもってプリントに取り組む姿が見られた。
- ・これまで話題にすることがなかったことを教師に質問してくるなど、既存の知識と新しい知識が結びつき、新しい興味・関心につながることでできた生徒がいた。

〔課題〕

- ・目的のひとつに「読書に親しむこと」があるが、自ら進んで読書をするには至っていない。読書月間を設定したり、教師のおすすめの本を紹介したりする等、読むことへの苦手意識を減らし、少しでも読書が習慣化されていくような機会を設けたい。

# 言葉遣いを意識すること

～生徒自身の気づきを大切に～

発表者① 荒木 関 圭司 発表者② 中林 史郎 発表者③ 中村 由美子

## 1 生徒の実態

思いはあるが自分から表現することに苦手意識を感じていたり、目的や相手に応じた表現が上手くできていなかったりすることから、無言になったり友達口調になったりする生徒がいる。昨年度の取組では、特定の相手・状況で丁寧な言葉遣いができる一方で、実際的な生活場面の中で相手・状況に応じた対応が求められると、学習で得た知識・技能を発揮することができず、言葉遣いが乱れるという課題が見られる。

## 2 目的（指導・工夫の意図）

本取組は、職業生活上で必要な言葉遣いについて意識付けることを目的として取り組む。そのため、生徒に丁寧な言葉遣い・敬語・あいさつ等についてのアンケートを取り、生徒自身が必要感を感じている言葉遣いを『職場で使う言葉遣いとあいさつ』として示した。

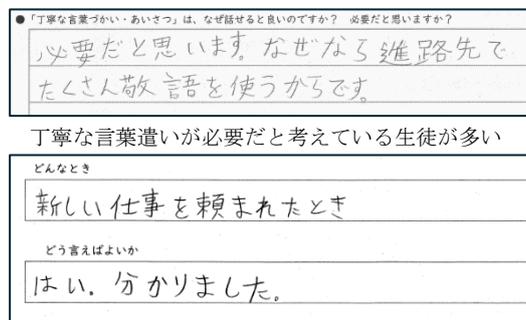
## 3 取組の実際・生徒の様子

作業学習の時間に焦点を当て、生徒自身が必要性を感じ『意識したい』と考える言葉を抽出して啓発のポスターを作成した。

〈言葉遣いアンケートの実施〉

〈言葉遣いアンケートの結果集約〉

〈ポスター化〉



生徒が日ごろ気を付けている言葉遣い



## 4 考察（成果と課題・今後の改善策など）

成果：アンケートの実施とポスターの掲示は意識の啓発につながった。（生徒の会話の中に意識している様子が見られた）

課題：掲示だけでは言葉遣いを意識する生徒が一部にとどまり広がりを見せない。

→ どの言葉を重視すればよいか分かりにくいのではないかな？

改善：①部集会でロールプレイ、②廊下に意識したい言葉を掲示し、生徒自身の気づきや意識付けにつながるようにした。

①②の提示後、生徒の様子や発言等を高等部教員間で確認し、共通理解しながらより良い改善につなげていく。

①毎月の部集会上において振り返りや意見交換をし、月替わりで特に大切にしたい言葉について、教師のロールプレイを実施



②今月の意識したい言葉を、焦点化して廊下に掲示

